

## トヨタ自動車（自動車館）視察 11月5日 保守連合

このたび、トヨタ自動車（自動車館）を視察しました。先方の都合で、工場内の見学はできませんでした。

### 状況

トヨタ自動車株式会社は、世界トップクラスの自動車メーカーです。豊田自動織機製作所（現：豊田自動織機）の自動車部門が独立して誕生したものです。本社所在地の地名は、その豊田にちなむもので、市議会が市名の改称を決定したものです。ダイハツ・日野自動車がグループに内にあり、世界各地に拠点を有しています。

### 施設と現況

本社所在地は、愛知県豊田市トヨタ町1番地です。日本では本社が地方都市にあるのは珍しく、その建物も超高層ビルではなく、平坦な巨大ビルの特徴を持っています。本社工場に隣接した、博物館としてのトヨタ会館があり、創業以来の歴史と伝える施設であったものが、近年、トヨタの環境・安全に関する最新技術や新型車を展示したスタイルに変更されたとの事でした。

### 視察事項に関して

トヨタ自動車の視察日は、たまたま、トヨタ自動車が本年度、純益が2兆円を越す見込みとなったことが新聞ニュースになった日でした。本社敷地内に見学用のトヨタ会館があり、方や小学生の学習見学があり、他方には外国の自動車企業の人や様々の見学者がありました。まさに、日常生活に密着した企業であり、世界企業でもある姿を感じました。

展示は、その自動車メーカーとしての歴史を示すものも多数ありましたが、主流には環境改善の取り組み、特に、水素ガスをエネルギー源とする自動車の展示がありました。



(この訪問直後に、市販されました)

また、トヨタの将来に関わること、あるいは今の事業とはやや異なった、ロボット単体や、自動車交通の自動運転システムの取り組みがありました。どこまで見据えているかわかりませんが、自動織機からスタートし、過去の最も大きな産業分野である自動車産業に営々と打ち込んできた姿がある一方、半ば遊び心にも通じるような個人的な仕様の乗り物がありました。自動車のイメージには程遠く、企業としての余裕を感じるものでした。





なお、こうした展示品を見ると、トヨタ自動車の発展方向が、電気自動車より燃料供給や走行距離の長さの特徴から、この燃料電池車（水素自動車）の拡大に向いている可能性がありました。今後、自治体はその先進的な側面から購入車両も電気自動車から水素自動車に変更する可能性も出てきました。